

感染症定期報告感染症別文献一覧表(再生医療等製品2025/4/1~2025/9/30)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	ウイルス感染	J Med Virol. 96(2024)e29711	<p>新興ウイルスによるヒト感染の新たな証拠は、それらの潜在的な公衆衛生上の重要性を示唆している。Statoviruses (stool-associated Tombus-like viruses) と名付けられたウイルスの新規分類群が、最近、複数の哺乳動物の消化管で同定された。本稿では、ヒトコロナウイルスOC43感染による急性呼吸器疾患患者5名の呼吸器から、meta-transcriptomic dataの遡及的解析により、呼吸器系Statovirus様ウイルス(仮称Restviruses)が発見されたことを報告する。Restvirusesは、ゲノム配列の53.1%~98.8%のアイデンティティを互いに共有し、39.9%~44.3%のアイデンティティをStatovirusesと共有した。系統発生解析の結果、Restvirusesは、急性呼吸器疾患を有するベトナム人患者の鼻腔スワブから採取されたStato様ウイルスとともに、Statovirusesの分類群とは異なる十分に支持されたクレードを形成することが明らかになった。しかし、RestvirusesとStatovirusesの一貫したゲノム特性は、それらが同様の進化の軌跡を共有している可能性があることを示唆している。これらの知見は、新興のRestvirusesの病因学的及び疫学的意義を解明するためのさらなる研究を正当化するものである。</p>
2	ウイルス感染	N Engl J Med. 392(2025)200-202	<p>ダニ媒介性疾患の継続的な出現と再出現は、人間の健康に対する脅威を増大させている。我々は、中国北東部の病院で最近マダニに噛まれた熱性患者に対して積極的な監視を行い、潜在的な原因物質を特定した。2023年5月から7月にかけて、252人の熱性患者から得られた血清サンプルのメタトランスクリプトームシーケンシングを実施した。また、de novoアセンブリを使用して、2人の患者から得られた血清サンプルで同定された未知のウイルスのゲノムを作成した。系統ゲノム解析により、このウイルスはナイロウイルス科のオルソナイロウイルス属に属していることが明らかになった(図1A、1B、及び1C)が、RNA依存性RNAポリメラーゼタンパク質のアミノ酸同一性が既知のすべてのオルソナイロウイルスメンバーと75.6%未満であることが明らかになり、新種を示している。新種を暫定的にXue-Chengウイルス(XCV)と命名した。</p> <p>2022年5月から7月から2024年にかけて募集された792人の参加者から得られた血清サンプル中のXCVを検出するために、リアルタイムポリメラーゼ連鎖反応(RT-PCR)解析とそれに続くサンガーシーケンシングを実施した。この解析では、PCR又はRT-PCR解析で他のダニ媒介性感染症が陰性であった26人のXCV感染患者を特定したが、<i>Rickettsia raoultii</i>に同時感染した1人の患者を除いた。血清サンプルをペアにした15人の患者では、ベースラインのIgG抗体価が4倍に増加した。26人の患者の臨床症状は、非特異的な急性熱性疾患から重症化までさまざまで、入院に至った。頻りに観察された検査室の異常には、白血球減少症と、肝臓アミノトランスフェラーゼ、乳酸デヒドロゲナーゼ、<math>\alpha</math>-ヒドロキシ酪酸デヒドロゲナーゼ、アミロイドプロテインA、及び過敏性C反応性タンパク質の血清レベルの上昇が含まれていた。これらのデータは、熱性疾患の原因として、ダニが媒介するオルソナイロウイルス種の出現を示唆している。</p>

ID	感染症(PT)	出典	概要
3	ウイルス感染	ProMED-mail 20250112.8721280	中国北東部のセンチネル病院で最近ダニに刺された発熱患者の積極的サーベイランスを行い、潜在的な原因病原体を同定した。患者から採取した血清サンプルで同定されたウイルスはナイロウイルス科のオルソナイロウイルス属に属していることが明らかになった。しかし、RNA依存性RNAポリメラーゼタンパク質のアミノ酸の同一性は既知のオルソナイロウイルスと75.6%未満であり、新しい種であることが示唆された。この新種ウイルスを、ウイルスが最初に認識された牡丹江市の地名にちなんで、暫定的に Xue-Chengウイルス(XCV)と命名した。感染患者が確認された地域では、イスカチマダニの6%、ヤマトチマダニの3.2%でXCVが検出されており、発熱性疾患の原因として、ダニ媒介性オルソナイロウイルスの新たな種を示唆している。
4	コロナウイルス感染	Emerging Microbes & Infections. 14(2025)2466705	2022年12月15日、韓国で、生後103日の乳児が発熱、咳嗽、喀痰分泌、鼻漏で入院し、ヒトパラインフルエンザウイルス1型とライノウイルスの重複感染と診断された。入院4日目のAST/ALTレベルの上昇は、一過性の肝機能障害を示した。メタゲノムNGS(mNGS)により、鼻腔ぬぐい液及び血清検体から新規ヒトコロナウイルス(HCoV)が同定された。レトロスペクティブなげっ歯類サーベイランスと系統学的解析により、この新規HCoVは韓国と中国のApodemus属が保有するアルファコロナウイルスに近縁であることが示された。この症例は、新興病原体を特定するためのmNGSの可能性を強調し、新規HCoVに関連する一過性の肝機能障害などの呼吸器外症状の可能性に対する認識を喚起する。この症例の肝障害は、新規HCoVに起因する可能性があるが、その医学的意義、疫学的流行、人獣共通感染症の起源を解明するためにはさらなる研究が必要である。
5	パストツレ菌血症	Emerg Infect Dis. 30(2024)1719-1721	74歳の女性が2022年1月にフランスのリモージュ教育病院の救急科に入院。悪心、嘔吐、発熱を伴う閉塞性症候群を訴えた。患者は2015年に小腸腺癌と診断され、胆道圧迫を伴う肺、肝への転移を認めた。複数回の化学療法と手術の後、消化器由来の重症菌血症と診断された。2021年12月に胆道ドレーンによる金属製人工胆管を留置した。この敗血症患者の血液培養からパストツレ科の新しい細菌属及び種である <i>Emayella augustorita</i> が発見された。
6	非定型マイコバクテリア感染	結核. 100(2025)178	現在、抗酸菌は190種以上が報告されている。今回、 <i>Mycobacterium</i> sp.新菌種による第一例と考えられる症例を経験したので報告する。症例は60代男性。2週間続く微熱、咳嗽を主訴にX年当院を受診。喀痰抗酸菌塗抹1+、M. intra-PCR陽性となり肺非結核性抗酸菌症と診断した。CAM/RFP/EBIによる治療を開始し、喀痰培養陰性化を確認しX+2年に終了した。X+3年、再度喀痰塗抹陽性となった。コロニー性状は黄色に変化していた。X+4年、質量分析実施したところ同定不能であった。M. intra-PCRは変わらず陽性を示した。完全長ゲノムを用いたAverage nucleotide identity解析では95%以上となる近縁種は得られず新菌種と考えられた。X+8年現在も外来通院を続けており、胸部X線は徐々に悪化傾向である。CAM/RFP/STFXでの治療を継続中であるが、排菌が続いている。新菌種による難治性肺非結核性抗酸菌症は経年的に緩徐進行する経過を呈した。